

## 山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



平成22年  
仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受  
1/4~1/7 年始挨拶  
1/10 年賀寺例  
2/3 大節分会  
2/15 釈尊涅槃会  
3/8 大般若会大施食会法要  
3月中旬 筆供養法要  
3/18~3/24 春季彼岸会  
4/8 釈尊降誕会(花祭り)  
7/13~7/16  
京浜地区檀信徒棚経  
7月下旬  
第29回子供禪の集い  
8/10 中元寺例  
8/13~8/16 盂蘭盆会  
9/20~9/26 秋季彼岸会  
11/3 檀信徒参拝研修旅行  
12/8 釈尊成道会  
12/10 歳暮寺例  
12/31 除夜会

- ※毎週土・日曜日 書道教室  
※毎週水曜日 定例坐禅会  
※隔週水曜日  
梅花講・琴教室・華道教室  
※宗務所執務日は月水金曜

## 平成22年庚寅 住職年頭挨拶

## 謹賀新年

明けまして、おめでとうございます。

「お寺も立派だけれど、檀家もいい檀家ばかりで羨ましい」これが住職が最近特に言われる有難い言葉です。

去年は5月より、いよいよ始まりました当寺御本尊様の釈迦三尊及び奥平時代の旧本尊・薬師如来様（共に高崎市指定重要文化財）の修復事業を全檀信徒一致協力の下、行っております。佛教造形研究所（代表・本間紀男元東京藝術大学大学院教授）にて、薬師如来様修復は無事完了し、現在室町時代の御姿を修復すべく御本尊様修復作業に取り組んでいただいております。檀信徒皆様方の格段の御配慮と篤き信仰心、その御蔭様で無事順調に修復事業が進んでおり、心より感謝しております。

6月には、僧階が権大教師となり、8月には黄恩衣被着許可をいただきました。秋たけなわの10月には、大本山總持寺の御征忌会法要にて、焼香師として太祖大師様に蜜湯・菓子・お茶・銘香をお供えする法要の導師を勤めさせていただきました。ご縁のある御寺院様方、地元群馬をはじめ京浜地区の檀信徒約150名もの方々が参加、共に法要に参列賜り、感激いたしました。

11月には、高崎市との合併後初めての吉井地区文化財保護事業として仁叟寺本堂（市指定重要文化財）修復工事が高崎市の補助金交付対象となりました。大きく湾曲して老朽化していた本堂の正面入口の樫材柱の入れ替え等、当工事には渋川市の宮大工・堂宮入秀社寺建築(株)等の会社に依頼。この工事には、高崎市文化財保護課の特別ご協力を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

その時代時代の住職と檀信徒が力を合わせて営々と維持し護られて五百年。この伝統と歴史に誇りを持ちながら、今を生きる檀信徒一人一人と手を携えて、絆を深め、厳しい時代と一緒に歩んでいきたいと思っております。本年も、宜しくお願い申し上げます。



↑大本山總持寺侍局にて  
(左) 龍源寺住職(長男)  
(中) 仁叟寺住職  
(右) 信永院副住職(次男)

## 大本山總持寺焼香師法要報告

昨年、10月12日（月曜、体育の日）に大本山總持寺にて修行されております御征忌会法要の焼香師を住職が勤めました。太祖大師献供諷經法要で、瑩山禪師様に蜜湯・菓子・お茶・銘香をお供えいたしました。

当日は、仁叟寺恒例の秋の檀信徒研修旅行と兼ね、同法要への参加の後は川越・喜多院様拜登をいたしました。縁のある御寺院様・信徒の皆様・親族等150名近い方々と共に、同法要を勤めさせていただきました。

また、法要後の点心飯台（昼食）は、焼香師記念上膳となり、精進料理の祝膳を皆様方と頂戴いたしました。ほか、併せまして前号の寺報で紹介いたしました通り、住職が6月に僧階が権大教師となり、8月に黄恩衣という黄色の恩衣を着けることが許されました。その御祝を兼ねての祝膳でもありました。

なお、黄恩衣（夏衣・冬衣）は、檀信徒の寺本欣一（高崎）と篠崎浩（東京）御両氏よりご寄進賜りました。ありがとうございました。

多くの参加された皆様方に、厚く御礼申し上げます。

→記念集合写真  
（於、大本山總持寺大祖堂）



↑太祖大師献供諷經法要風景

## 焼香師法要に参加して 寄稿 総代人 森久氏

去る10月12日、曹洞宗大本山總持寺焼香師記念檀信徒参拝研修旅行により、初めて大本山總持寺を訪れる事が出来ました。豊かな緑に囲まれた広大な敷地中に、数多くの諸堂が配置されていて、横浜市鶴見区の市街地に居ることを忘れさせられました。

今回、大本山總持寺で焼香師をお勤めになるのは、全国の曹洞宗寺院1万5千ヶ寺の住職中19名であり大変な名誉な事であります。

法要儀式は、檀信徒約150名が見守る中、午前11時過ぎから大祖堂で厳粛の内に始まりました。およそ200名にも及ぶ僧侶が入場し、その多さに驚きました。その後、焼香師を勤める仁叟寺御住職が入場して参りました。その姿は少し緊張気味でありましたが、堂内に読經が響く中、儀式の進行と共に一糸乱れぬ行動で御菓子、御茶等を献供する姿は、自信に満ち一回りも二回りも大きく見えました。この様子を拝見いたし、大変感動を覚えました。焼香師の大役ご苦労様でした。私にとりまして、有意義で思い出に残る研修旅行となりました。



↑森久総代人



# 仏像修復事業報告 ～現在迄の進捗状況～

## 仁叟寺御本尊釈迦三尊修復経過報告

日時	内容	場所	参加者
平成21年			
5月31日	御本尊様遷座法要 (修復事業及び志納勸募開始の法要と会議)	仁叟寺本堂・欣光閣	総代世話人全員60名
8月9日	総代人会議	仁叟寺欣光閣	総代人全員
9月14日	仏教造形研究所との修復契約調印	東京日本橋・小津美術館	住職、本間所長他6名
9月28日	文化財修復申請書提出及び会議	高崎市教育委員会文化財保護課	副住職、市職員3名
10月1日	禊加持法要 (仏像修復の用材を供養祈禱)	山梨県・仏教造形研究所河口湖工房	住職、総代長、本間所長他15名
10月13日	高崎市教育委員会文化財保護課調査視察	仁叟寺	高崎市職員、部長・課長他4名
々	旧御本尊薬師如来遷座 (再修復の為、河口湖工房へ移動)	仁叟寺本堂	仏教造形研究所本間所長他1名
10月20日	高崎市都市計画課文化財視察	仁叟寺	市職員など関係者31名
10月26日	高崎市教育委員会文化財保護課調査視察 (仏像調査)	仁叟寺	市職員2名
10月30日	高崎市教育委員会文化財保護課調査視察 (本堂調査)	仁叟寺本堂	市職員2名
11月16日	高崎市教育委員会文化財保護課調査視察 (本堂調査)	仁叟寺本堂	市職員2名
11月25日	御本尊釈迦三尊像遷座 旧御本尊薬師如来像御帰座	仁叟寺本堂	仏教造形研究所本間所長他2名 仏教造形研究所本間所長他2名
々	高崎市教育委員会文化財保護課調査視察 (薬師如来・御本尊)	仁叟寺	市職員2名
11月29日	総代世話人合同会議 (旧御本尊薬師如来御帰座と半年間の経過報告)	仁叟寺欣光閣	総代世話人全員60名



↑ 佛教造形研究所本間紀男教授により頑丈に梱包され修復に出発する仁叟寺御本尊様釈迦如来像と脇侍仏二体  
(いずれも高崎市指定重要文化財)

約3年半もの間、役員会等で慎重審議を重ねてまいりました本尊様等仏像修復事業が昨年より本格的にスタートいたしました。

上記表にこれまでの経過を記載しております通り、昨年11月25日に仁叟寺御本尊様釈迦三尊像は、佛教造形研究所の鳴沢工房へと修復へと旅立たれました。また、それに併せまして修復しておりました薬師如来像が帰山いたしました。薬師様は仁叟寺で一番古くかつ大きな仏像であり、作は平安末から鎌倉に掛けてと言われております。当寺が奥平から神保に移転する迄の間、本尊様であったと伝えられております。

今回の御本山様修復に際しまして、修復終了までの間、仁叟寺の御本尊様の御代理をお勤めになります。なお、御本尊様釈迦三尊像と共に、高崎市の重要文化財にも指定されております。



↑ 佛教造形研究所の鳴沢工房（山梨県）にて修行された禊加持法要（使用する木材を清め修復の無事を祈る）。

## 仁叟寺本堂工事報告

- 工事期間 平成21年11月24日～平成21年12月19日
- 工事内容 仁叟寺本堂正面入口の樺柱2本取替工事  
及び本堂内部左側大廊下樺柱取替工事
- 工事理由 長年の風雨・日光により樺柱が大きく湾曲し、強度と壁面に支障を来す恐れのある状況が認められた。また、大廊下の樺柱は、頂上面が大きく湾曲し、「くさび」を入れて補修してあったが、強度の不安があり柱の取替工事の必要が認められた。
- 施工業者 堂宮入秀社寺建築株式会社（入内島秀男社長、渋川市白井）。  
多くの寺社建築工事を手掛けている実績のある宮大工。
- 特記事項 高崎市合併後に吉井地区では初となる文化財保護事業となった。

平成21年10月13日に、高崎市教育委員会 教育部長・文化財保護課長・同課長補佐・同主任主事の方々が来山され、仁叟寺の文化財調査に立ち会っていただきました。更に、同26日、30日、翌11月16日、25日と何度も文化財保護課の担当者の方に御足労賜り、仏像と本堂の調査に当たっていただきました。

その結果、高崎市合併後、吉井地区では初の文化財保護事業として、仁叟寺本堂改修工事が補助金交付対象事業になりました。



↑ 本堂入口に新しい樺柱が入った直後の様子



本堂  
正面入  
口の樺

柱や大廊下の樺柱をジャッキで持ち上げて入れ替えるという難しい工事。宮大工の匠の技というべき卓越した技術により、工事は無事完成し、後は若干の付帯工事（山号額の取付工事等）を少し残すのみとなりました。

市の宝としてご協力いただいた高崎市教育委員会をはじめとした関係の各位の皆様方に、厚く御礼申し上げます。



↑ 取替工事を行った痛みの激しい樺製の木鼻（江戸期）



## 各種団体による仁叟寺参拝団及び坐禅会報告

## 平成21年 仁叟寺参拝団（敬称略）

2月20日	曹洞宗山梨県第17教区参拝団	10名
3月19日	埼玉県大畑散歩の会参拝団	14名
3月31日	埼玉県岡部霊場会参拝団	20名
4月10日	サンコーグループ社員研修参禅参拝団	55名
4月13日	スリランカ大菩提会参拝団	5名
4月20日	吉井町文化財調査委員会調査団	8名
6月6～7日	高崎市立高崎経済大学武井ゼミ一泊研修参禅会	14名
7月10日	高崎市観光ガイド研修参拝団	10名
7月29～30日	第28回 仁叟寺子供禅の集い	40名
8月21日	南毛霊場参拝の会参拝団	9名
9月17日	第1回群馬県警藤岡警察署職員研修参禅参拝団	30名
9月18日	第2回群馬県警藤岡警察署職員研修参禅参拝団	30名
10月20日	高崎市都市計画課研修参拝団	31名
11月10日	第1回吉井寿大学研修参禅参拝団	40名
11月10日	吉井鍛冶町いきがい教室研修参拝団	30名
11月17日	第2回吉井寿大学研修参禅参拝団	35名
11月30日	高崎市中居社会福祉協議会研修参拝団	25名
12月20日	富岡歩こう会研修参拝団	160名

昨年の研修参拝団及び参禅会参加団体等のご報告です。地元小学校及び中学校の研修学習などは省略いたしました。多数の方々にご来山いただきました。参拝参禅をご希望する団体・組織は、事前に仁叟寺までお問い合わせの程、お願い申し上げます。

## 仁叟寺探索-22- 「常燈明一對」しょうとうみょう 常燈明→

常燈明とは、堂宇内にある置燈籠のことを指します。多くは電気を使用した照明となっており、唐金などの金属製のほか木製もあります。仁叟寺本堂には、慶応元年冬（1868）に黒澤（小林）正喜寄進による常燈明が安置され、銘が燈籠の首部に彫られております。寸法は、高さ218cm、幅・奥行63cmと大型です。 **證明傘銘** 天祐山常證明銘弁引上毛之南陲神保村有精舎曰天祐山仁叟寺替時直翁齋正禪師之創立是寺也予先世小林筑前守之弟少林與奥平同宗長根丹後守之長子縫殿之助有兄弟之契因俱指資助營築之役六夫年久則心忽宗遠則情疏常人之所不免而家門衰廢之听由兆也不肖正喜於是造常燈一對安置于本寺龕前蓋欲使干孫遵奉慎終追遠之古訓也故爲之銘銘曰常念祖先燈光永傳明銘斯鐫爲叙



## 井上正俊総代長年賀挨拶

→井上正俊総代長



輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
必ずしも喜ばしいことばかりではなかった昨年。今年こそはという大きな期待をお持ちのことと思います。

そんな中、当寺に於きましては、菩提寺及び檀信徒の願望であった御本尊釈迦如来様、脇侍二体様の修復が、皆様の貴い信仰心と善意により着手出来ましたこと、有難くその崇高さに心を打たれ感謝申し上げます。

また、秋には、御住職様が大本山總持寺に於いて、開山である太祖禅師様に献供・焼香されるという栄誉に、多くの檀信徒と共に参加することが出来ました。重ねて、御住職様の資格昇格により黄色の恩衣被着が許可されました。これらの祝意を兼ねて、大本山總持寺に於いて祝膳を頂戴いたしました。この上ない慶賀でございます。改めまして、皆様方の御先祖様、菩提寺に対する畏敬の念に敬服いたしております。

社会不安も日常であります。御先祖様を大切に、また菩提寺の護持に一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

檀信徒の皆様方の繁栄とご多幸を祈念いたします。

## 平成22年 年回表

一周忌	平成二十一年	二十三回忌	昭和六十三年
三回忌	平成二十年	二十七回忌	昭和五十九年
七回忌	平成十六年	三十三回忌	昭和五十三年
十三回忌	平成十年	五十回忌	昭和三十六年
十七回忌	平成六年	百回忌	明治四十四年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます（五十、百回忌を除く）。

## 行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。

昨年は山内に於いては長年の懸案であった仏像修復事業が始まり、御蔭様をもちまして非常に順調に進行しております。また、秋の恒例の檀信徒研修旅行では、大本山總持寺での住職の焼香師法要を大勢の皆様方と勤める機会に恵まれました。併せて、僧階が上がり権大教師となり、黄恩衣被着の許可の御祝も同じく皆様方と共に出来ました。檀信徒はじめ関係者各位に於かれましては、厚く御礼申し上げます。

住職地龍源寺はもちろん副住職地仁叟寺のほか宗務所執務や行政及び社会福祉関係のお勤め等も不肖ながら勤めさせていただいており、昨年に引き続き慌しくなっております。出来得ることはしっかりと務めさせていただこうと思っておりますので、何卒、本年も宜しくお願い申し上げます。

合掌

